

龍
影法師
乾

5
706
1

75

70

65

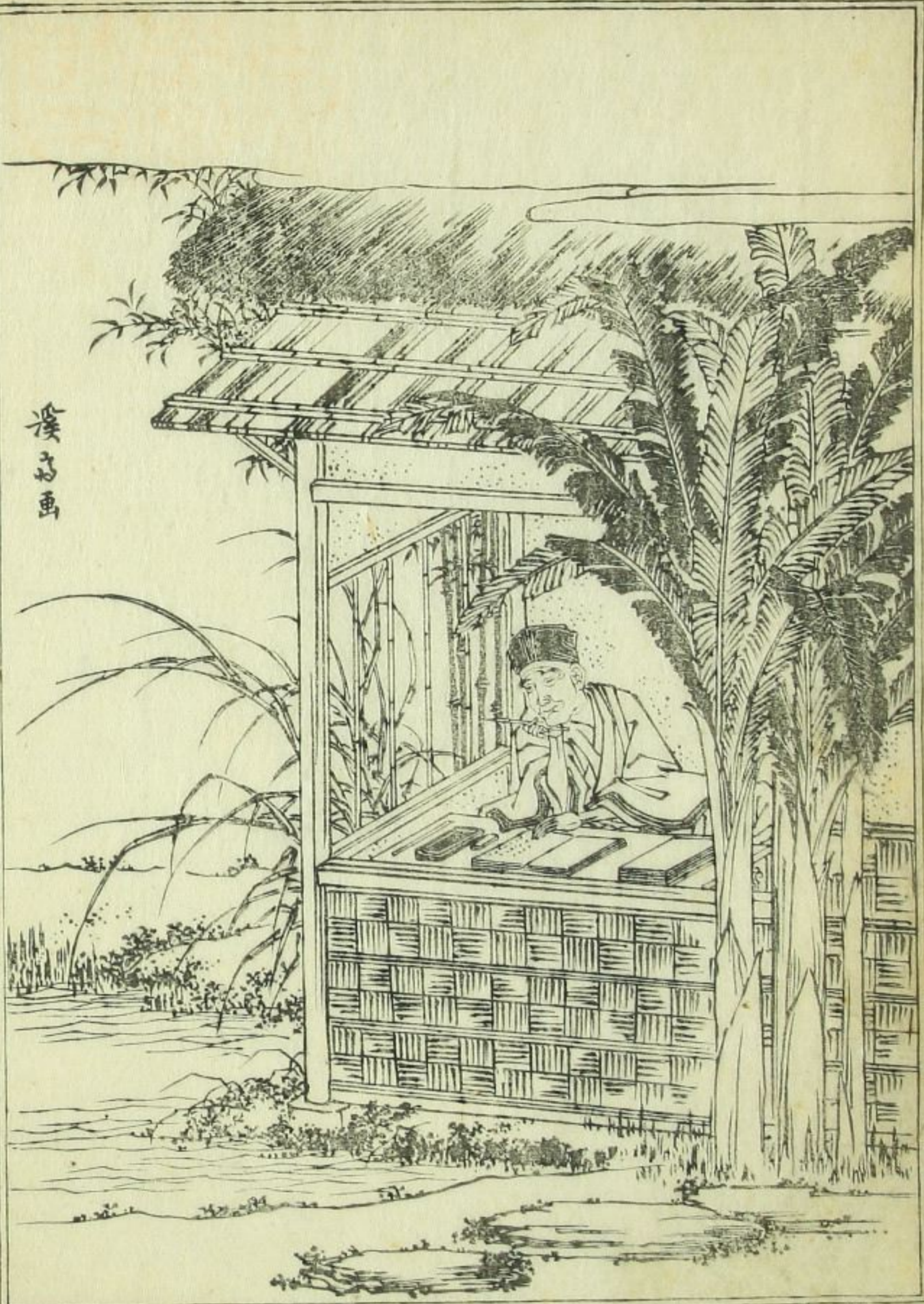
60

55

剝
門
號 706
卷 1

平内雄蔵氏印
大正三年

松の葉乃為年おふまき古居ふい哉
飛の如く禮延き乃の古算神世の
言葉よのまゝもて依信頼と新者きよ
後拾遺金部ふりといはれしは新古神
都あゝ算の旨通き世の古名ゆえりや
芭蕉の翁さゝもも俳諧の所ふまを好きて
此如川の風神杖とて立掛とめて世乃中に流る
以て世に言ひしは翁の如くわりの言ひを好む
そ能く心を慕ひて言ひしは翁の如くわりの言ひ



漢の画

明治三十二年十一月五日
平内雄蔵氏印

人の徳を以てはるおとすは古に好むる
ありてはるも或は措き年あるに書
ふは申すは乃系志書に首は系乃世に
たててい者も魚種もやありては
静かなる乃河に此系志深くは形本
なりてはるも徳を以てはるは
阿波に系乃也此系埋に此おはは
いそくは系乃巨勢野に植つてはる
系乃先著は系乃系乃系乃系乃

依潜悟る系乃系乃系乃系乃系乃
抑能はる系乃系乃系乃系乃系乃
言乃系乃の林を以てはるは系乃系乃系乃
系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃
也か系乃の系乃系乃系乃系乃系乃系乃
乃乃系乃の系乃系乃系乃系乃系乃系乃
い乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃
系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃
い乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃系乃

耳草つ先を... 五月、八角井富基寧志...
あふもねくもねく... 時より天保
ハもねくもねく...

関東一宮船橋御殿大宮司 基寧

昔の世なる神の言を... 伊代乃とつえと...

惠泉寛書



芭蕉翁句解序

江戸の... 伊代の... 中... 昔... 日...
くま... 日...
くま... 日...

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

ふとそつちぢやけりしん陸あはれ
りそこのあのみをたつとく

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

俳諧悟影法師

目錄

- 一 俳諧起原傳
- 一 松尾芭蕉傳
- 一 發句姿見鏡傳並知息自得傳
- 一 俳諧虛實傳
- 一 蕉翁句解傳
- 一 發句三鳥傳

鷄鳴舍陸田一貫輯
小篔菴確嶺校合

東京生田區
餘下町百拾番地
保

陽神 喜哉 遇可美少女
陰神 喜哉 遇可美少女
是俳諧之此二歌遠東稱天三十六字也陰陽合
須留則波五行其中仁會天殘留所三十一字也
大哉俳諧者乾坤分レテ五形ヲ顯ハシ後二神交
合之御詞ヨリ日本之風俗成國ヲ保千身ヲ修メ
心ヲ直ス攻ノ道也雖然ト元是心ヨリ出テ心ニ
善惡ヲ讓假ニモ疎ニ不可仕能其短ヲ守リ吉凶
ヲ辨フベシ仍テ圖ヲ見テモ可慎

○天

五

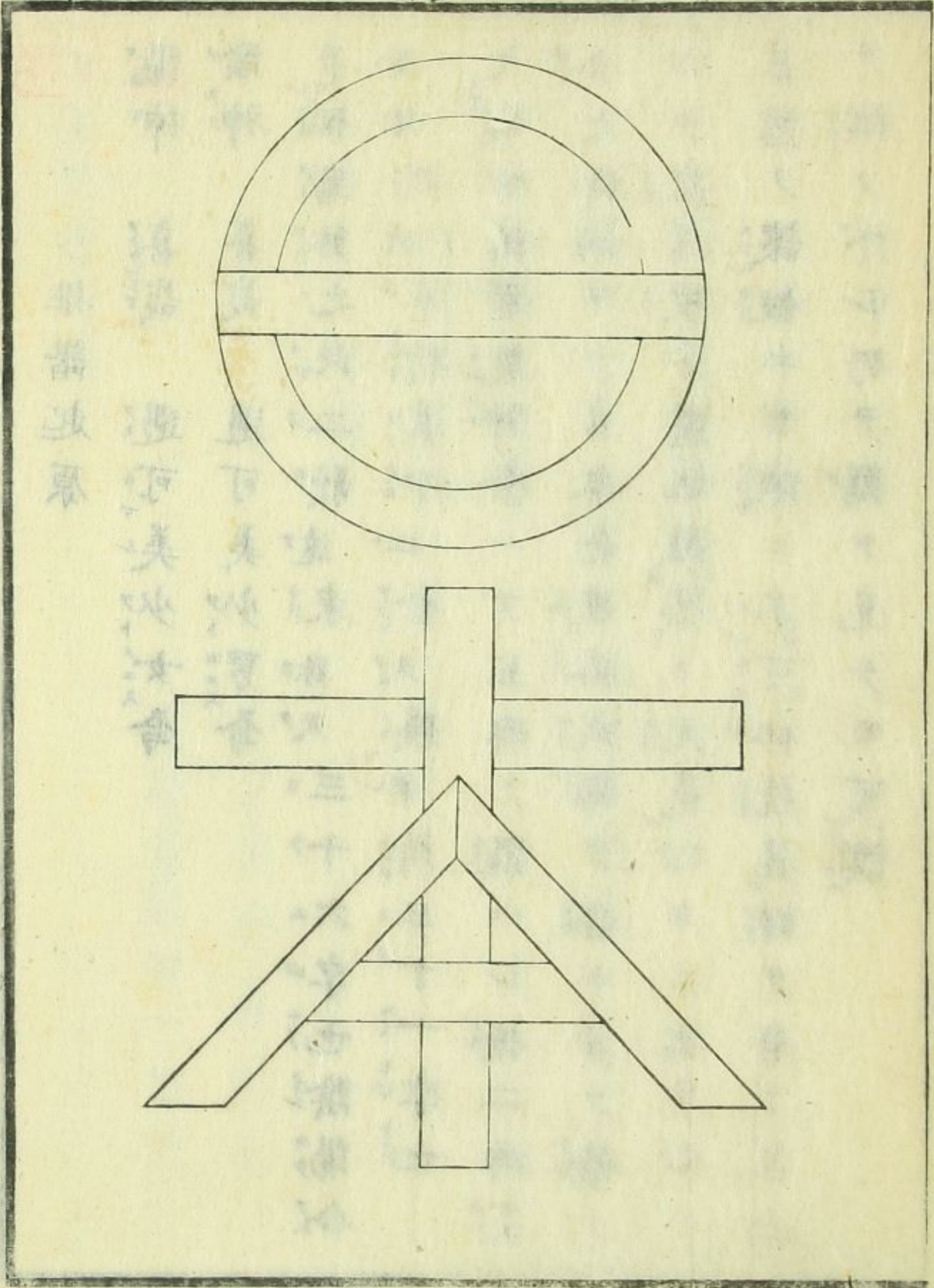
- 一 發句三木傳
- 一 切字結字傳
- 一 發句變格傳
- 一 同天仁遠波傳
- 一 俳諧玄心傳

俳諧起原

俳諧起原
俳諧起原

○天

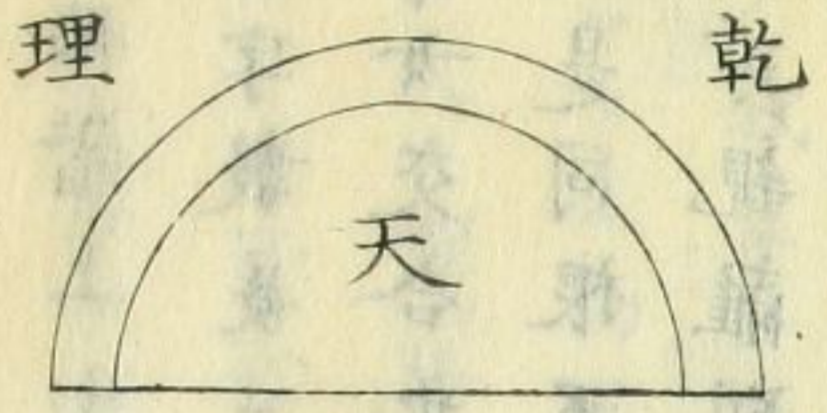
四



○天

五

凡日ノ字ハ天地開闢ノ形也清キハ澄リテ天ト成リ
 濁ルハ降りテ地ト成其中ハ中央ト云所謂天ハ父也地
 ハ母也中央ハ人成レハ子也是俳諧ノ發句腋第三
 タリ



理

乾

天

智

中央

人

儀

坤

地

○天

六

右之圖者天人地ヲ本骸而萬法顯

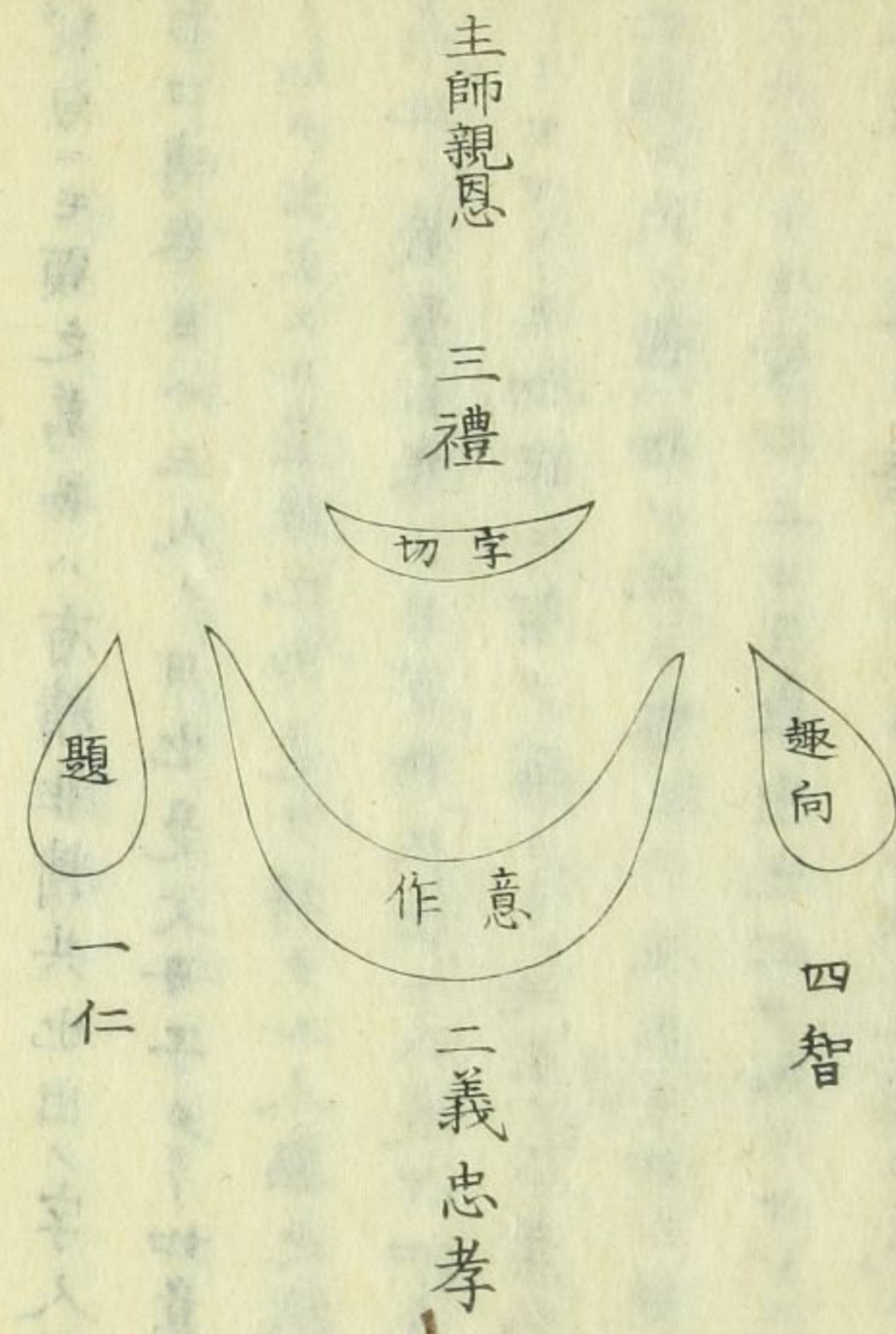
既ニ俳諧上十七字數半ニ而陽也男也尤天也下
十四字數長ニ而陰也女也是地兩句番則天地和
合男女交合也其中餘精ノ作意胎奇妙生出清濁
二元是同根渾沌未分時緣有ニ因テ亦交合ノ中
成必可親離別スル則他人タリ故ニ一句々々ヲ立ル
上十七字ニモ理智議ヲ籠下十四字ニモ是備猶發句
專之又和謔ニ精氣理ノ三品アリ
乃物乃。精身。氣身。貞德。氣身。

如意宝珠

○理身

發句ニモ顯之萬物ハ有精非精共也出ノ字人間ノ生ル
形口傳春日ハ三人ノ日也是父母子タリ如意宝珠ハ心
ノ如ク出生スル宝珠也即是ヲ得タル人無之誠ニ天ノ理
高地ノ義厚シ春ノ日万物生出セハ是ヤ如意宝珠ナラ
ントセヤト云切字ニ智ヲ備タリ此手尔葉物而大事
也誠ニ天ノ種ツ物ヲ地ニ降シテ生出カ如シ流石ニ一句
ヲ仕ルトモ皆心上ヨリ生出也心ヲ知ラサレハ俳諧ノ道
之道タル事ヲ悟リカタキトス次ナル圖ヲ見テモ知ベシ

然レハ發句ヲスルニ先題取彼作意ヲ廻シ是ニ切字ヲ入能趣向ヲナスヘシ題春夏秋冬ノ季ヲ入ヘシ作意一節可笑ク切字一二字ニテ自他善惡ヲ辨ヘ趣向ハ必詞ノ縁ヲ思一句ヲ練ナスヘシ左ノ題ヲ取作意ヲ廻切字ヲ入趣向ヲナス仁義禮智四ツ也信ハ各籠ル信ノ字ハ人ノ言ト書タリ是俳諧也付句モ右ニ同前句ニ元付テ作意ヲ廻シ手尔葉ヲ心得テ連續詞ニ結フ如此俳諧者神道之根源日本之風俗尤奇也妙也可貴可敬者和詩三神之冥見可恐穴賢



松尾蕉翁傳

芭蕉庵桃青ハ伊賀國阿部郡柘植村の産也平治元年
宗清苗裔少テ松尾儀左衛門三男三八郎則翁也

正保甲申年誕生幼名半七又系流甚四郎名ハ宗房後
改桃青寛文二壬寅年翁歳十九初テ伊賀上野城主藤
堂新七郎良晴小仕良晴卒後嫡子良忠仕良忠弟名
蟬吟北村季吟門人翁を愛してやわ小月苑を脱ひ
終ふ事良忠宗房両吟の考ありといふ良忠祖父良
勝ハ大坂役小戦死すを翁は法蓮ふ

大坂役を見ぬ等の言やみり来 蟬吟

とてなき 翁の 又や橋のよ

寛文六年丙午四月良忠早世を翁はくうねり
同来六月遺髪奉りて高野山小登報恩院小をさめ
下旬歸國只報恩院色去帳小ハ松尾忠左衛門後と記
有るあれより翁志きく小遁世のころさし有暇を
願へとも許しあけしを秋七月隣家同僚孫ちまう門
小一つの包をのめりて辞をその包の中小纏丹あ
り宗房廿三歳

とてあつ川有るは 厚の活別

夫より京都ふとくく吟史小遊學する 享七年东山

小作泊船堂と號を寛文十二壬子年翁廿九歳より
九月東教松風方一來る松風杉山氏

御入國より公用の魚屋なり小田原町小作を後翁
小石川水道修成備夫となりて功終る頃薙髪して
風羅坊素宣と改時より松風より翁の句小

翁文意ハ十徳を著して中なる也

翁三十一歳夫より伊賀浪花東都小作學して延寶
四丙辰年翁三十三歳此春三百韻の俳諧あり六月伊
賀小至り秋東教より歸り本所中郷完林院より禪
學小入又鹿島混本寺より佛頂老師より禪意を悟

畫法を森川許六小得たり何の年かのありん石山の
奥小客居して幽閑をたのむ貞享四年廉鳴の吟
行あり同五年杜國を携て大和小作より元禄二年曾良
を率て陸奥より旅より同七年の秋翁伊賀小至り
浪花より松風人々あれハ奈良の重陽をのけてゆくと
文考惟然を伴ひ風松なるの日痢を病て大坂御堂
前花屋仁左衛門の後園小伏兵病中の吟

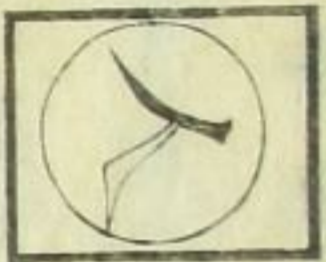
曉く病く夢ハ枯骨をうけまらる

是風吟の終なり終る七日をさるる殺を感おす有一
嗚呼悲しいかな此叟一といはた小龍舉してさるる

自然の跡を開きつゝいふ道道をゆく人を教道せら
 せしる筆紙ふつゝいふ道道先一をあげて志をせ
 わせせん元禄申酉加刑令城より行脚の勞を休る
 初春より一一夜會合あり一ふその餐應味を
 設けしと後一のそんで後會を約せんといふ前田
 今宵のちてわつゝいふ道道と言語よのいふいふ
 恨むらくは風雅の寂寥一我の浮世をよむ一室のそ
 あらうは時來りて是森の夢をむきい或は山中ハ一村
 の雨を志のくちつゝいふ道道珍物滋味量風流の
 本意ならんやと中けるといふてその地ハ北枝暮

柳舎等の名をとおせしも金く筋のそと深のま
 えやうまゝいふ道道いふ道道の道道いふ人
 りつゝいふ道道いふ道道いふ道道いふ道道いふ
 いふ道道いふ道道いふ道道いふ道道いふ道道いふ
 道道いふ道道いふ道道いふ道道いふ道道いふ

発句姿見鏡傳



三つのおのり
多子多孫は是のふりキク子愛は現在
未のしりしとて未のしりしとて
不足不中不疑不行不疑不疑の教なり

此の天地のふり
天のふり
地のふり
人のふり

天のふり
地のふり
人のふり

天のふり
地のふり
人のふり

天のふり
地のふり
人のふり

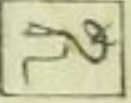

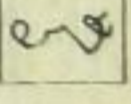
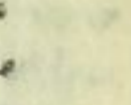
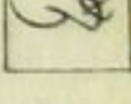
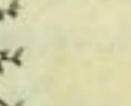
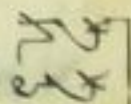
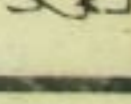
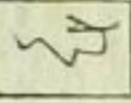
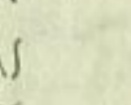
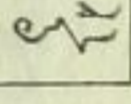
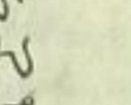
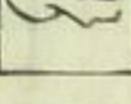
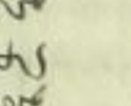
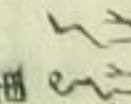
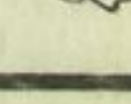
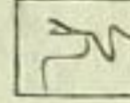
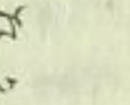
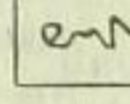
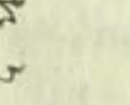
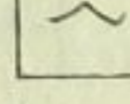
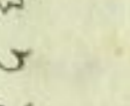
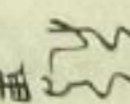

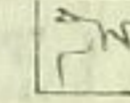
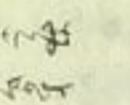
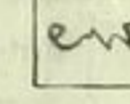
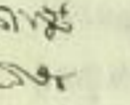
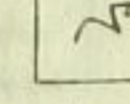
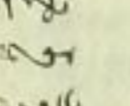
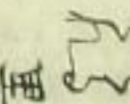

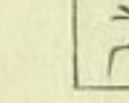
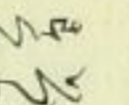
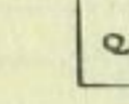
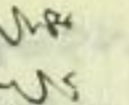
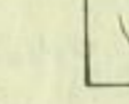
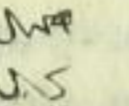
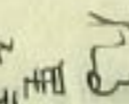
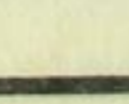
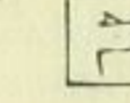
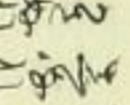
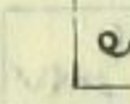
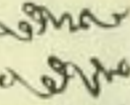

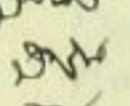
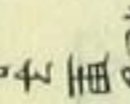
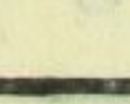
天のふり
地のふり
人のふり

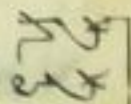
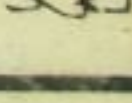
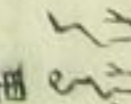
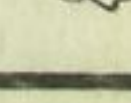
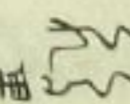

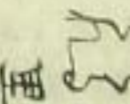

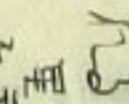
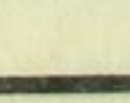
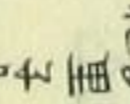
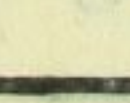
天のふり
地のふり
人のふり

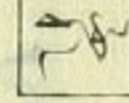
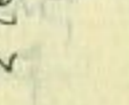
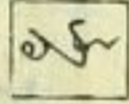
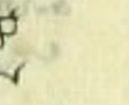

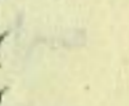
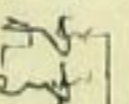
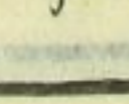
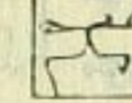
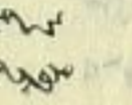
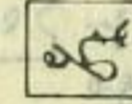
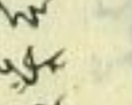
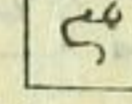
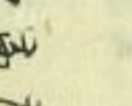
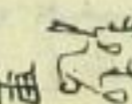
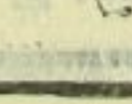
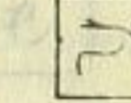
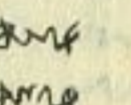
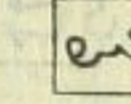
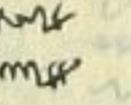
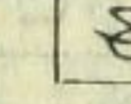
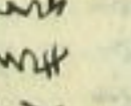
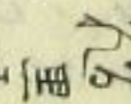
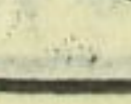
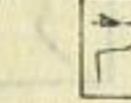
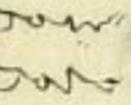
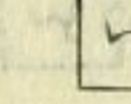
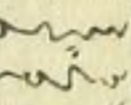
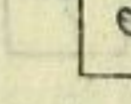
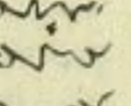
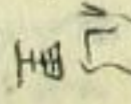
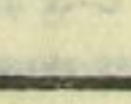
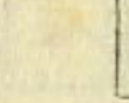
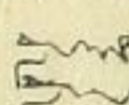
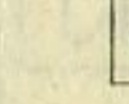
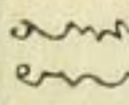
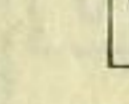
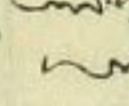
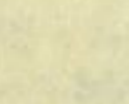

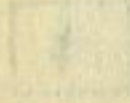
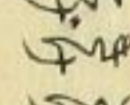
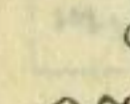
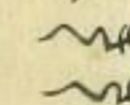
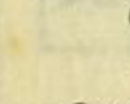
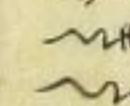
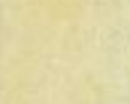

天のふり
地のふり
人のふり

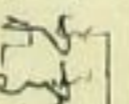
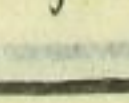
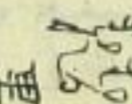

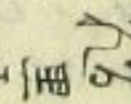

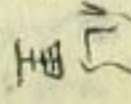
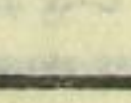
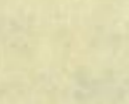

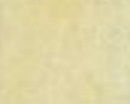

<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>
<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>
<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>

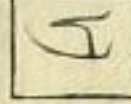
<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>
<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>
<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>	<p>亂所 流思得</p> <p>亂所 流思得</p>

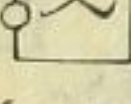
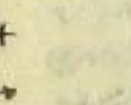
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>

<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>
<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>	<p>   </p>



知息自得傳

蓋天地人の三才ハ大虚の體用となる要道あれを
 四民やわふちるきんハあるつうきとそれ天と圓やして
 色ふとりてハ白く清らふきみてのちるわねあつて
 別人の卒のち形を地ハ四角やして色ふとりて
 黒穢わたりて陰るものちるつうきと人ハ一圓の
 小天地このち色ふとりて天にちるつうきと地は
 ちるつうきと形ふちるつうきと地は色ふとりて
 ちるつうきと形ふちるつうきと地は色ふとりて
 ちるつうきと形ふちるつうきと地は色ふとりて
 ちるつうきと形ふちるつうきと地は色ふとりて

虚ノ一とちるつうきと地は色ふとりて
 あらふハ 虚格ふちるつうきと地は色ふとりて
 格ふちるつうきと地は色ふとりて
 居大人ノ虚格とちるつうきと地は色ふとりて
 の格ふちるつうきと地は色ふとりて
 あらふハ 虚格ふちるつうきと地は色ふとりて
 ちるつうきと地は色ふとりて
 虚格とちるつうきと地は色ふとりて
 時ハ天地人三才ハ大虚一心より出現して
 てハ色ふとりて

句お湯も古人の海言の志事いづる一のみさういお入る時を
天入一合古今一時あるものあかり

いふ一いふいづるいづるいづる世の中心

いづるいづるいづるいづるいづるいづる

手尔乎波朝の始終

て亦さそのやいのくいささそのむの結お句の始をさ
も。後。そ。の。や。海。と。た。い。ひ。と。言。ふ。さ。一。句。の。終。の。ま。つ。ふ
轉^ツて二つお結れるまをくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ぬさなれまゆまのいづるいづるいづるいづるいづるいづる
るものわうそくくこの文を能備のまとおのやこそ
かいそせまおちく母まいそくくくくくくくくくくくくくく
と終まのいづるいづるいづるいづるいづるいづるいづる
一き神まの始終まをまきぬまのいづるいづるいづるいづる
こ終^四終^五まをまきぬまのいづるいづるいづるいづるいづる
たづみのわうそくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ら終まのいづるいづるいづるいづるいづるいづるいづる
句のまをまきぬまの始まをくくくくくくくくくくくくくく
ら終ま

始

終

こ	け	せ	て	ね	へ	め	れ	き	一	一	一	一	ま	一
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○ *[Handwritten musical notation]*
[Handwritten musical notation]
[Handwritten musical notation]
 これハ脚結抄の音也

○ *[Handwritten musical notation]*

[Handwritten musical notation]
[Handwritten musical notation]
[Handwritten musical notation]
[Handwritten musical notation]
 ○ *[Handwritten musical notation]*
[Handwritten musical notation]
 ○ *[Handwritten musical notation]*
[Handwritten musical notation]
 ○ *[Handwritten musical notation]*
[Handwritten musical notation]
 ○ *[Handwritten musical notation]*
[Handwritten musical notation]

○五の $\text{A} \text{B} \text{C} \text{D} \text{E} \text{F} \text{G} \text{H} \text{I} \text{J} \text{K} \text{L} \text{M} \text{N} \text{O} \text{P} \text{Q} \text{R} \text{S} \text{T} \text{U} \text{V} \text{W} \text{X} \text{Y} \text{Z}$
 $\text{a} \text{b} \text{c} \text{d} \text{e} \text{f} \text{g} \text{h} \text{i} \text{j} \text{k} \text{l} \text{m} \text{n} \text{o} \text{p} \text{q} \text{r} \text{s} \text{t} \text{u} \text{v} \text{w} \text{x} \text{y} \text{z}$
 $\text{0} \text{1} \text{2} \text{3} \text{4} \text{5} \text{6} \text{7} \text{8} \text{9}$
 $\text{!} \text{ } \text{,} \text{ } \text{.} \text{ } \text{:} \text{ } \text{;}$

篇 一

序 $\text{A} \text{B} \text{C} \text{D} \text{E} \text{F} \text{G} \text{H} \text{I} \text{J} \text{K} \text{L} \text{M} \text{N} \text{O} \text{P} \text{Q} \text{R} \text{S} \text{T} \text{U} \text{V} \text{W} \text{X} \text{Y} \text{Z}$

題 $\text{a} \text{b} \text{c} \text{d} \text{e} \text{f} \text{g} \text{h} \text{i} \text{j} \text{k} \text{l} \text{m} \text{n} \text{o} \text{p} \text{q} \text{r} \text{s} \text{t} \text{u} \text{v} \text{w} \text{x} \text{y} \text{z}$

曲 $\text{0} \text{1} \text{2} \text{3} \text{4} \text{5} \text{6} \text{7} \text{8} \text{9}$

流 $\text{!} \text{ } \text{,} \text{ } \text{.} \text{ } \text{:} \text{ } \text{;}$

物の名をいふの如きなり 序の初に書く

題の初に書く

序の初に書く

曲の初に書く

流の初に書く

物の名をいふの如きなり 序の初に書く

題の初に書く

序の初に書く

曲の初に書く

流の初に書く

夢ハ扁序題曲流のあつて後白の序題世の...
十一字の...後白の十...
...
...
...
...

くも...
...
...
...
...
...

き...
...

...
...

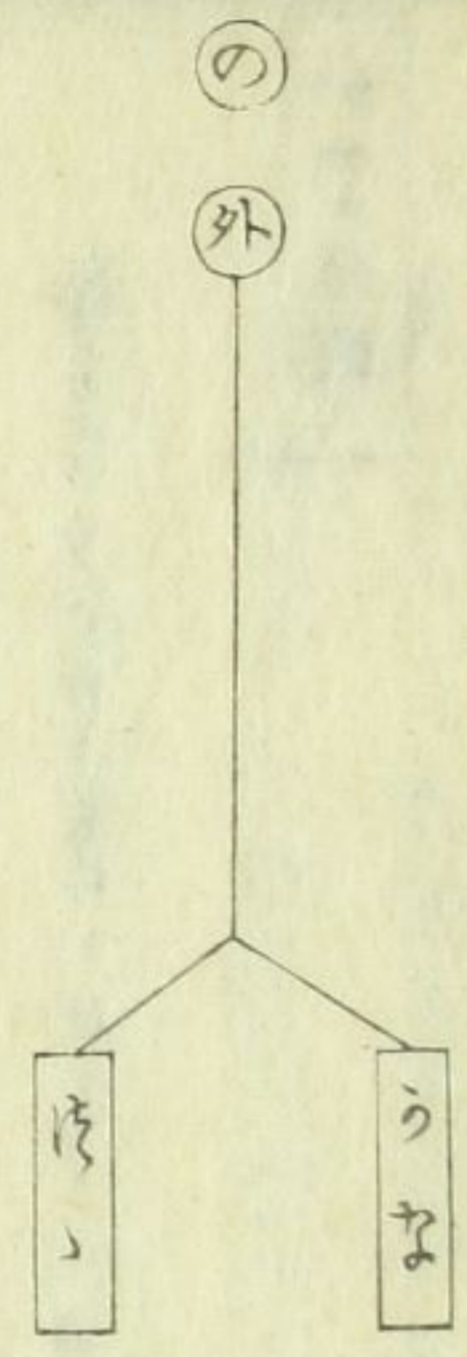
...

...
...

...

...
...
...

梅洞
不角
家紙



外 ぎょしおねりいぎぎきききりれ
家紙

外 乙日月に梅おさうーいんひんひん
不角

外 母の中ハニりらんぬるお梅うね
夢を

の 輝やきくふそれる京の流まが
梅洞

是いごうひのちをくと結んぬるのれう

きく哉とあうり右左ふまゝいんひんひんひん

といあゝききききききききききききききききき

三景のなうれききききききききききききききき

外 妻の梅をたよりあけくむらうね
をせぬ

の いく年の白髪も非のきり申
吉来

あゝゝりあはり同ー是いあああーああああ

俳諧秘法部

や△のや

是いごうあうむるや△をきききききききききき

梅洞

不角

ちむらうほそく Omura no Ura no Ura no Ura no Ura no Ura

あて 受

かゝるのちやいそりり めりりち 目

そいりち余情をいそりり あつちり

あつちり あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

正親の 句法四月中の酉日加茂の社奉納

あつちり あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり 了阿

これいを讀とさるの あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり 此格ハ社奉納

納又ハ祝言 あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり

アヤラワの十字の中 あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり

とくみ十字額の横十字 あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり

くみ十字 あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり

の あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり

十字句 あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり

あつちり あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり 拾粟

あつちり あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり

あつちり

あつちり あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり あつちりあつちり あつちりあつちり 玄米

是ハ横十字イ。キ。ニ。ヒ。ミ。イ。リ。キ。ノ。中。を。こ。ら。ま。
 句のこらふむきいさう句法にけりまれば并紙祝
 うきまき句の句少きよこらふあきまき句の款句まきん
 ことらひの句少きさうさうさう

○并紙ハ正親句祝言少めさき句こりまきハ御階
 の及あきまきを時其傍あをさきと音無不二并正ハ如
 こらまきさうさうさうさうさうさうさうさうさう

正親句の句法

みまほさうさうさうの中の時さきまきまきまきまき
 さうさうさうさうの中の時さきまきまきまきまきまき

さうさうさうさうの中の時さきまきまきまきまきまき
 さうさうさうさうの中の時さきまきまきまきまきまき
 さうさうさうさうの中の時さきまきまきまきまきまき
 さうさうさうさうの中の時さきまきまきまきまきまき
 十九の格さうさう

佛潜虚實起傳

佛潜の道と虚實

或人問曰といひのれハ何の爲ふまゝなるや善哉善哉佛潜
平話を聞きんくもなきなり又問佛潜の爲とまゝなるや何
又曰佛道なる無あり佛道存子あるまゝなるの實智と佛
佛せり焉及よ佛潜あるをいふめ教とまゝなるまゝハ法に
なりて及めつらふなり及これどもまゝなるの爲とまゝハ
有連の次ふまゝなり佛を向との一途あるまゝなり
りまゝこれハ虚實のありあり物ハ虚ハ居て實ハ居
らるまゝなり。ありて虚ハ居るまゝなり。ありて實ハ居るまゝなり。

て人をまゝにむるまゝなりありてまゝハ法のち。まゝのち。まゝのち。まゝのち
月のまゝなりを佛むハ連有のまゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
佛潜のまゝなり少許待歌連佛とらるまゝなりまゝなりまゝなり
つゝまゝなり虚ハ有るまゝなり又まゝなりといひ實ハ虚あるまゝなり
世知まゝなりといひまゝなり實あるまゝなり仁義礼智といふ虚ハ有る虚
あるまゝなり佛ありて或ハまゝなりまゝなりこれまゝなり人まゝなり
して我家の佛授の人まゝなり又まゝなり虚ハ有ると二
方ありてつらまゝハ虚ハ天也上天のことハおとすまゝなり
真もまゝなり虚靈不昧なりて道の本源まゝなり覆
化まゝなりまゝなり實を地なりてまゝあり山一頁海を載せ

て空^{クウ}なる^スと^シも^シ入^ルる^{コト}も^シも^シこの^中に^四時^ノ境^リ
初^ハ波^ハ生^ク死^ハ有^ク情^ヲ能^ク感^スる^{コト}も^シも^シ虚^ナり^シて^實なる^{コト}も^シも^シ
と^シも^シ少^シなり^シて^多なり^シて^虚ハ^境の^内に^在り^テ實^ニなる^{コト}も^シも^シ
用^カら^ズに^正の^体あり^シて^正なる^{コト}も^シも^シ佛^ノ道^ノ知^ルハ^虚
なり^テ實^ハ終^ニなり^シ佛^ノ道^ノ皆^ハ空^ニなり^シて^實相^ハなり^シ
又^文より^シて^虚ハ^又なり^シ実^ハなり^シ實^ハなり^シ虚^ハなり^シ
実^ハ實^ニ又^虚實^ニ実^ハ化^ルる^{コト}も^シも^シ化^中に^在り^テ實^ニあり^シ
又^實中^に少^シ化^有り^シ多^シなる^時ハ^天地^ノ未^カ定^ト已^ニ用^カり^テ
少^シなる^時ハ^人の^一念^ヲ未^カ定^ト已^ニ生^クる^{コト}も^シも^シ一^念に^在り^テ
と^シも^シ何^レも^シ有^クる^{コト}も^シも^シ有^クる^{コト}も^シも^シ有^クる^{コト}も^シも^シ

合^ノに^一念^ヲと^シも^シの^より^もあ^らず^にも^シも^シ終^ニ織^セバ^天
人^ノ得^ル一^念に^在り^テ此^ノ天^道の^名も^シも^シ天^道に^在り^テ
せ^ても^シも^シ虚^ニなり^テ又^虚を^体に^して^人道^を
律^義に^在り^シて^行ふ^{コト}も^シも^シ夫^レノ^天道^ノ大^虚に
あり^シ時^ハ去^リて^来り^テも^シも^シ變^化に^對し^テ時^ヲ行^ハふ^{コト}も^シも^シ
働^カふ^{コト}も^シも^シ人^道の^名法^{あり}その^變化^にあ^らず^にも^シも^シ
智^とい^ふも^シも^シ不^知なる^{コト}も^シも^シ此^レも^シも^シ知^ルを^地なる^{コト}も^シも^シ
と^シも^シ彼^レも^シも^シの^より^もあ^らず^にも^シも^シ

